

授業科目：摂食機能療法学

担当教員：植田 耕一郎，阿部 仁子，中山 潤利

<p>学年・学期：3年次・後期 単位：4単位</p>
<p>授業の概要： 少子超高齢社会における日本の医療体制の変化を背景として、学生は講義を通じて「障害の医学」についての概念と摂食嚥下リハビリテーションの理念を理解する。また、その理念と概念をもとに、基礎的な手技・臨床的な知識を習得する。講義後に、各講義の学修内容について指導教員と議論・検討し、理解をより深めることができる。</p>
<p>一般目標（GIO）： 日本は、世界でも有数の長寿国家であるが、平均寿命と健康寿命の差は大きく、男女ともに10年前後の介護生活を余儀なくされているのが現状である。このような状況をうけ、在宅医療における医療は「治す医療」から「寄り添い支える医療」へと変化しており、医科、歯科のみならず介護、福祉、保健の領域の職種との多職種連携・協働とチーム医療の重要性が叫ばれている。歯科医療従事者の役割も大きく変わりつつあり、診療所での診療だけでなく訪問歯科診療といった新しい診療体制や、それにかかわる有病高齢者・要介護高齢者に対する全身管理や対応なども求められるようになってきている。当該授業では、学生が講義・レポート課題・口頭試問を経て、要介護高齢者や有病高齢者、障害児に対する歯科医療の現状と摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科医師の役割を理解し、その知識を実際の診療で応用できることを目的としている。</p>
<p>到達目標（SBOs）： 学生が要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法の概念を理解するために、講義を通じてリハビリテーションの理念を理解し、摂食嚥下障害の診断法、アプローチ手技、および高齢者歯科医療に関する基本的な知識を身につけることができる。また、レポート課題と口頭試問により、学生が自身の知識の習得レベルを理解することができる。</p>
<p>DP・CP： DP：DP1，DP2，DP4 CP：CP1，CP4</p>
<p>授業の方法： 研究テーマに沿った内容の講義（講義中に資料を配布する）、課題となる文献に対するレポート課題と口頭試問を行う。</p>
<p>準備学習（予習・復習）： 各講義の前に指定の教科書、参考書を熟読し、予習しておくこと。</p>
<p>教材（教科書・参考書等）： 脳卒中患者の口腔ケア第2版，摂食嚥下リハビリテーション第3版，よくわかる高齢者歯科学，小児の摂食・嚥下リハビリテーション</p>
<p>成績評価の方法及び基準： 成績評価は、講義についての理解度、達成度をレポート課題（80%）と口頭試問（20%）により総合的に評価・判定を行う。</p>
<p>オフィスアワー・e-mail： 植田耕一郎：木曜日 12：00～13：00・ueda.kouichirou@nihon-u.ac.jp 阿部 仁子：木曜日 12：00～13：00・abe.kimiko@nihon-u.ac.jp 中山 潤利：木曜日 12：00～13：00・nakayama.enri@nihon-u.ac.jp</p>

授業計画

回	授業日	担当教員	学修項目	学修到達目標
1	10月5日(木)	植田耕一郎	障害を持った口腔とは	障害者の口腔病態(摂食機能障害の病態を中心)について理解する。
2	10月12日(木)	植田耕一郎	摂食機能療法と脳血管疾患	摂食機能療法を行うにあたり、脳血管障害の運動障害・感覚障害・高次脳機能障害について理解する。
3	10月19日(木)	阿部 仁子	摂食嚥下の生理学	摂食嚥下の生理学的、解剖学的メカニズムを学ぶ。
4	10月26日(木)	阿部 仁子	摂食嚥下機能の発達過程	乳幼児期における摂食嚥下機能の発達について理解する。
5	11月2日(木)	阿部 仁子	摂食嚥下の臨床的病態	摂食嚥下障害が起きるメカニズム、誤嚥性肺炎発症のメカニズムについて学び理解する。
6	11月9日(木)	阿部 仁子	摂食機能障害の診査・診断 (1)	摂食機能障害患者に対する視診、触診、聴診等の臨床診断について学び、理解する。
7	11月16日(木)	阿部 仁子	摂食機能障害の診査・診断 (2)	摂食機能障害に対する簡易評価(スクリーニングテスト)と、確定診断を学び、摂食嚥下障害患者への評価までの流れを理解する。
8	11月30日(木)	阿部 仁子	嚥下造影検査	嚥下造影検査の手法と画像を学び理解する。
9	12月7日(木)	阿部 仁子	嚥下内視鏡検査	嚥下内視鏡検査の手法と読影を学び理解する。
10	12月14日(木)	中山 潤利	摂食機能障害に対する治療的アプローチ (1)	間接訓練(食べ物を使用しない基礎的訓練)について学び理解する。
11	12月21日(木)	中山 潤利	摂食機能障害に対する治療的アプローチ (2)	直接訓練(食べ物を使用する訓練)について学び理解する。
12	1月11日(木)	中山 潤利	摂食機能障害に対する代償的アプローチ	利き手交換、経管栄養、中心静脈栄養等の代償方法について学び理解する。
13	1月18日(木)	中山 潤利	摂食機能障害に対する環境改善的アプローチおよび心理的アプローチ	環境の改善による自立支援による考え方、手法を学び理解する。また、心理的支援に関する考え方、医療従事者の取り組むべき姿勢について学ぶ。
14	1月25日(木)	植田耕一郎	21世紀の歯科医療のあり方を考える	日常生活動作の中の在宅口腔ケア、医療、介護、福祉、保健における歯科医療の責務、チーム医療について考察する。
15	2月1日(木)	植田耕一郎	摂食機能療法学を学んで考えること	全講義で学んだ知識を整理し、理解を深める。